

国交振会報

Kanramachi International
Friendship Association

発行 公益財団法人甘楽町国際交流振興協会

発行日 2015年2月17日

事務局 甘楽町役場企画課

TEL 0274-74-3131

No.84



中国・^{ハルビン}ハ爾濱市訪問団 派遣報告(2015.1.21-23)

去る1月21日(水)から23日(金)までの3日間、当協会は中国にある甘楽町の交流都市・^{ハルビン}ハ爾濱市へ訪問団を派遣しました。甘楽町とハ爾濱市教育局は1991年に友好交流都市の覚書を締結して以来、20年以上に亘り交流を続けています。今回の訪問団は、今後の両市町の都市交流方針についてハ爾濱市政府と協議するため、国交振が主体となって派遣実施したものです。



▲ハ爾濱市教育局のみなさんと訪問団一行

してくださった市教育局側に富岡理事長がお礼を述べた後、「諸事情により定期的な交流事業が滞っている現在の状況は大変残念である。今回の訪問で両市町の友情の絆を改めて確認し、今後も変わらぬ友好交流を継続したい。」との甘楽町側の考えを説明しました。また、「秦局長も近いうちにぜひ日本にいらしてください。甘楽町一同が大歓迎します。」との茂原町長からのメッセージを伝えました。

これら甘楽町側からの話に対し秦局長は、「ハ爾濱市としても、今後も甘楽町との交流を継続したい。また、可能な限り早期に私もぜひ甘楽町を訪問したい。」との見解を示し、今後の交流継続を約束しました。その後、中学生研修団相互派遣事業等の具体的な進め方について、市教育局交流担当者の話も聞きながら調整を行いました。

団員は富岡理事長、新井副理事長、吉田常務理事及び松沢事務局長を派遣し、町議会から黛哲夫議長及び江原榮和議員に同行いただきました。通訳として、甘楽町在住の佐俣福艶氏(通訳)が随行し、総勢7名でハ爾濱市を訪問しました。

滞在中、訪問団はハ爾濱市政府を表敬訪問し、昨年末に市教育局長に就任した^{しんとくりょう}秦徳亮局長と会談したほか、同局の交流担当者を交えて今後の交流事業の進め方について協議しました。

会談では、まず冒頭に急な訪問団の受入を快諾



▲秦局長(左)に記念品を渡す富岡理事長

会談終了後、訪問団は市教育局担当者の案内で市街地を見学し、中国文化への理解を深めました。

また、夜には市教育局主催で夕食会が開かれました。両市町の関係者が円卓を囲み、中国・黒竜江省の伝統料理を食べながら歓談しました。

飛行機のフライト時間込みで2泊3日という大変短いスケジュールでしたが、ハ爾濱市政府との協議を無事に終え、両市町の今後の交流継続を約束して23日(金)、訪問団は帰国しました。



▲夕食会で関係者と歓談

今年はハ爾濱市との交流年として、中学生相互派遣等の交流事業を予定していますので、今後とも、国交振の国際交流事業へのご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



イタリア・チェルタルド市訪問ツアーⅡを開催しました

2015.1.30-2.6

国交振では、1月30日(金)～2月6日(金)の間、6泊8日の日程でイタリアの姉妹都市・チェルタルド市を訪問するツアー「イタリア・チェルタルド市訪問ツアーⅡ」を開催しました。このツアーは会員を対象に企画・募集したもので、チェルタルド市を訪問するのは2009年の第1回ツアー以来、約5年ぶり2回目となります。昨年10月に会員へ募集案内し、先着順で申込みされた20名に参加いただきました。ツアーの様子を写真付きで報告いたします。

1月30日(金)、集合したツアー参加者は、マイクロバスで成田空港に向かい、直行便に乗ってイタリアへ出発。約15時間のフライトの後、ヴェネツィアへ到着しました。

翌31日(土)は、1日かけてヴェネツィアを観光しました。

2月1日(日)は特急列車ユーロスターに乗ってフィレンツェへ移動しました。フィレンツェでは、ヨーロッパ最古の美術館のひとつ「ウフィツィ美術館」をはじめ、ドゥオーモ、ポンテベッキオなどを見学しました。フィレンツェ見学後、バスに乗った一行はいよいよ姉妹都市・チェルタルド市へ到着しました。



▲チェルタルド市表敬訪問

2日(月)、チェルタルド市で迎える最初の朝、ツアー一行は市関係者を表敬訪問しました。会場となった「ボッカチオの家」では、ジャコモ・クチーニ市長や都市交流担当のクララ・コンフォルティ評議員らが歓迎してくださいました。表敬訪問を終えた一行は、旧城郭地区「チェルタルドアルト」やプレトリオ宮殿など、市内の名所を視察しました。また、その夜にはチェルタルド市国際文化交流推進協会(以下「チェ市協会」)のリド・オルシ会長が経営するピザレストラン「イル・フィアーノ」で夕食会が開かれました。同レストランはなかなか予約が取れないことで有名な人気店で、道の駅甘楽の飯塚大晃職員が3か月間のピザ研修でお世話になった店でもあります。夕食会に出席した一行は、本場イタリアのピザに舌鼓を打ちながら、チェ市協会の会員と交流を深めました。



▲オルシ会長経営レストランのピザ窯

翌3日(火)、チェルタルド市のみなさんとの別れを惜しみながら、一行は次の目的地・ローマに移動しました。この日から5日(木)までの3日間、イタリアの首都・ローマとヴァチカン市国を観光し、イタリアの歴史・文化の奥深さを肌で感じました。

こうしてイタリアの旅を満喫したツアー一行は、翌6日(金)に無事帰国しました。参加いただいたみなさまからは、「楽しかった」「参加して良かった」というお言葉をいただくことができました。参加者のみなさまには、円滑なツアー実施にご協力いただきましたことにお礼申し上げます。ありがとうございました。

また、今回のツアーでは、チェ市協会が中心となってチェルタルド市滞在中の対応をしてくださいました。チェ市協会は、過去の甘楽町中学生ホームステイ受入家庭を中心メンバーに発足した団体で、昨年夏に実施した第15次チェルタルド市訪問甘楽町中学生国際交流研修団派遣事業においても、多大な協力をいただいています。チェ市協会に対しましても、本ツアーが無事に実施できたことを心より感謝申し上げます。

国交振では、今後も会員のみなさまに喜んでいただける事業を企画して参ります。最新の情報は会報等でお知らせいたしますので、興味を持たれた方はぜひご参加ください。



▲コロッセオ前(ローマ)